



## 中央ろうきん助成プログラム



2017  
選考結果

### 中央ろうきん社会貢献基金

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-5 (中央労働金庫 総合企画部内)  
フリーダイヤル: 0120-86-6956 (平日9:00~18:00)



ごあいさつ	1
プログラムの特長とスケジュール	2
応募状況	4
選考体制	5
選考委員長による選後評	6
2017年助成対象団体一覧	7
スタート助成3年目／ステップアップ助成 対象団体の概要	10
予備審査担当者 所感	16
本審査選考委員 所感	20
募集要項	22
応募用紙	24

## ごあいさつ

〈ろうきん〉は、働く仲間を応援する非営利・協同組織の福祉金融機関。

「働く人の生活を守り向上させる」という使命のもと、労働組合・生協・市民活動団体などの非営利組織と連携した助け合いの金融機能によって、働く人が安心して暮らすことができる地域社会の実現に取り組んでいます。

いま、働く人が暮らす地域は、子育てや介護、環境、さまざまな障がいや困難、格差など、たくさんの課題を抱えています。

「ひと」がそれぞれの地域で喜びと誇りを持って働き、活動し、共にいきる一。

私たちは、そうした人間味ゆたかな「共生社会」の具体化をめざし、2002年度に「中央ろうきん助成プログラム 個性が輝く“ひと・まち・くらし”づくり」をスタートしました。

このプログラムでは、関東エリア1都7県を対象に、働く人が抱える地域社会の課題解決に向け、未来の財産となる「ひと」を育て、魅力的で住みよい「まち」をつくり、多様な生きかたを認め合う「くらし」を実現する活動を応援します。

特に、財政規模の比較的小さな団体を対象とし、市民活動の新しい芽をじっくり支えるプログラムとなっています。

また、このプログラムを通して〈中央ろうきん〉の会員と、助成対象団体との協働が生まれることも期待しています。

今年4月、2017年の選考作業を無事終了することができました。

〈中央ろうきん〉をご利用いただいている皆さまへの感謝の気持ちと、一人でも多くの方に「中央ろうきん助成プログラム」を知っていただきたいという思いから、本冊子「2017年選考結果」を作成いたしました。

心をこめて、皆さまにご報告させていただきます。

中央ろうきん社会貢献基金

\*このプログラムは、特定非営利活動法人市民社会創造ファンドの協力のもと、企画・運営を行っています。

### 中央ろうきん社会貢献基金

福祉・環境および文化にかかわる助成、支援活動を通じて、人々が共生できる社会の実現に資することを目的に設立(2002年4月1日)。働く人の団体、広く市民の参加による団体に対する助成・支援活動とそのために必要な事業を実施しています。

### 特定非営利活動法人市民社会創造ファンド

新しい市民社会の実現に寄与することを理念とし、NPOの資金源を豊かにし、民間非営利セクターの自立した発展と活発化を図ることを目的に、日本NPOセンターの実績の一部を継承・発展するかたちで設立(2002年4月1日)。個人・企業・団体等からの多様な寄附や助成の受け皿となる専門的なコンサルテーション機能を備えた資金仲介組織です。

東京都中央区日本橋堀留町1-4-3日本橋MIビル1階 / TEL:03-5623-5055 / <http://www.civildfund.org>

# プログラムの特長 と スケジュール

「中央ろうきん助成プログラム 個性が輝く“ひと・まち・くらし”づくり」は、市民活動の促進をめざして取り組む中央労働金庫(中央ろうきん)の社会貢献活動です。

## ● 本プログラムの対象分野

下記の3分野を対象としています(複数の分野にわたって取り組む活動も含まれます)。

<p><b>1</b></p> <p><b>ひとつづくり</b></p> <p>未来になう子どもや若者たちが、個性豊かに成長し、自立した個人として地域で行う活動など</p>	<p><b>2</b></p> <p><b>まちづくり</b></p> <p>生活の場としての居住地や商店街などを魅力的な空間とし、自然や歴史を生かした住み良い地域環境をつくる活動など</p>	<p><b>3</b></p> <p><b>くらしづくり</b></p> <p>地域に生きる人が、さまざまな障がいや困難を乗り越えて地域社会に積極的に係わり、安心して自立した生活を実現するための活動など</p>
--	--	---

## ● 重視する活動

働く人が抱える地域社会の課題を解決する活動で、以下のものを重視します。

<p><b>1</b></p> <p>働く人が、自らの経験を活かして参加する活動</p>	<p><b>2</b></p> <p>自らの地域をよりよくするために、さまざまな人が自発的に参加する活動</p>	<p><b>3</b></p> <p>地域のさまざまな団体が連携し、取り組む活動</p>
--	--	--

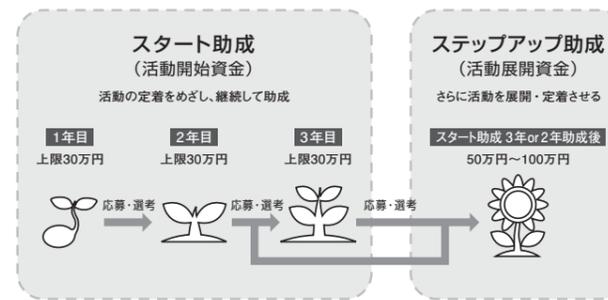
## ● シンボルマークのご紹介

<p><b>スタート助成</b></p> <p>1年目 【芽が出た種子】</p>  <p>芽が出たばかりの『種子』は、スタート助成1年目の団体を表しています。“これから始まる活動”や“始まったばかりの活動”を応援していることを表現しています。</p> <p>『双葉』は、スタート助成2年目の団体、さらに成長した『若葉』は、スタート助成3年目の団体を表しています。活動が定着するまで継続して応援し、徐々に活動が育まれていく様子をイメージしています。</p>	<p><b>ステップアップ助成</b></p> <p>【大きな花】</p>  <p>立派に咲く『大きな花』は、ステップアップ助成の団体を表しています。ステップアップ助成は、スタート助成で3年または2年にわたって活動を行った団体が対象で、さらにその活動を展開・定着させていくための資金。すでにある団体の“力”と、ろうきんの助成金という“肥料”とが合わさり、大きな“花”が咲くことを願ってデザインしています。</p>
--	---

## ステップを踏んでチャレンジする、継続助成制度

スタート助成1年目の助成が決定すると、活動の発展に伴って2年目、3年目、更にステップアップ助成へと継続的に応募し、最長4年間の助成に挑戦することができます。

継続して助成を受けるには、年ごとに応募し、選考を受ける必要がありますが、応募用紙を作成することで、各団体の活動の目的・内容・方向性などを改めて振り返っていただく機会の創出につなげています。



## “つながり”を大切に助成制度をめざして

年ごとに実施されるこのプログラムでの出会いは、一期一会。<中央ろうきん>と助成団体との出会いはもちろん、助成団体同士の出会い、選考や運営に協力いただく選考委員・NPO支援組織の方々との出会いがあります。このプログラムで出会った方々との“つながり”を大切に、分野や地域を越えた新たなネットワークやパートナーシップを築いていただくため、年に数回の交流の場を設けています。

## ● パートナーミーティング (贈呈式)

助成決定後に、記念盾贈呈セレモニーと交流会の2部構成で開催いたします。助成が決まったすべての団体にご出席いただくほか、選考委員や1都7県の地域のNPO支援組織の方、<中央ろうきん>職員もお祝いに駆けつけます。「パートナーミーティング」の名のとおり、これから始まるお付き合いの挨拶も兼ねて、相互の理解と親睦を深める交流の場となっています。

2016年は115名が一堂に会し、地域別・分野別のグループ分けを仕掛けとして、参加者同士のマッチングを企画。参加者からは、「色々な活動分野の方と話ができて刺激を受けた」「新たなつながりができて視野が広がった」などの声が寄せられ、活発な情報交換と交流の機会となりました。



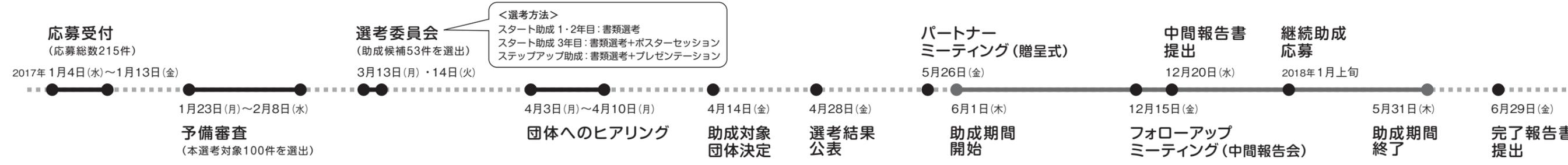
## ● フォローアップミーティング (中間報告会)

助成期間を一定期間経過したのち、最長4年の助成制度を上手に活用し、それを糧にそれぞれの団体が自立した事業運営を進めていくための報告会を実施しています。活動の成果や課題を振り返ることで自分たちの活動を見つめ直す機会となるほか、他の団体の活動内容や助成金の活用方法を知ること、今後の活動のアイデアを共有する機会となっています。

2016年は66名が参加。前半は、1年目助成団体のポスターセッション(助成からの半年をまとめたポスターを自由に見て回り、参加者同士が感じたことを伝え、応援メッセージを交換する)による交流と、過去にステップアップ助成を受けた団体の成果報告を行いました。後半は、「解決したい課題」や「実現したい未来」など、参加者に挙げていただいたテーマごとのグループに分かれ、活動の意義や展開方法について意見交換を行いました。

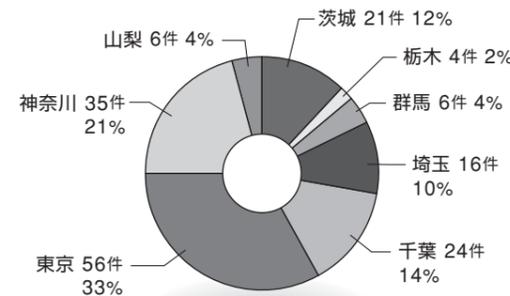


## <2017年スケジュール>

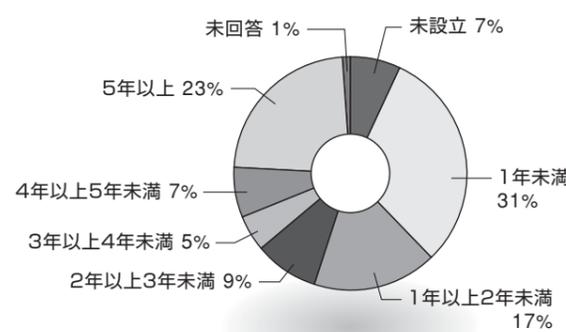


※スタート助成1年目(168件)を対象として集計

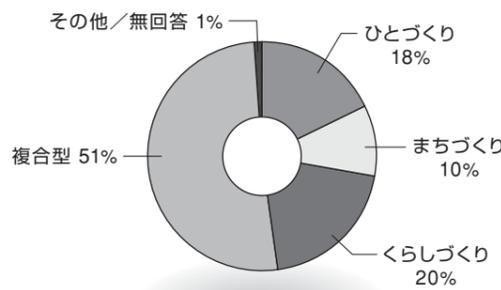
## <地域別応募状況>



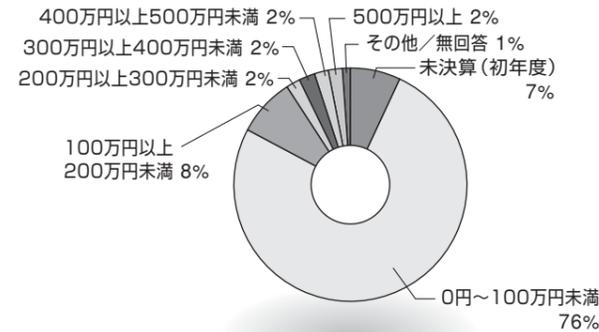
## <応募団体の活動年数>



## <活動分野別応募状況>



## <応募団体の支出規模>



### [分類]

- ひとづくり  
未来をにう子どもや若者たちが、個性豊かに成長し、自立した個人として地域で行う活動 など
- まちづくり  
生活の場としての居住地や商店街などを魅力的な空間とし、自然や歴史を生かした住みよい地域環境をつくる活動 など
- くらしづくり  
地域に生きる人が、さまざまな障がいや困難を乗り越えて地域社会に積極的に係わり、安心して自立した生活を実現するための活動 など
- 複合型  
他分野との複合により、上記1~3の分野に関連する活動 など

## ●都県別の応募数・本審査対象数・選考結果

都県名	スタート助成・1年目			スタート助成・2年目			スタート助成・3年目			ステップアップ助成			採択数合計
	応募	本審	結果	応募	本審	結果	応募	本審	結果	応募	本審	結果	
茨城	21	8	5	1	1	1	2	2	2	1	0	0	8
栃木	4	2	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0	2
群馬	6	4	2	2	1	1	2	2	1	1	0	0	4
埼玉	16	8	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	6
千葉	24	10	5	2	2	2	1	1	1	2	2	1	9
東京	56	14	6	6	5	4	4	3	3	3	3	1	14
神奈川	35	11	4	3	3	2	2	2	0	3	2	1	7
山梨	6	4	0	2	1	1	2	2	2	1	0	0	3
合計	168	61	24	19	16	14	15	14	11	13	9	4	53

## ●選考委員会

※敬称略 所属名は選考委員会開催時点(2017年3月)

- 選考委員長 薬袋 奈美子 (日本女子大学 家政学部 住居学科 准教授)
- 選考委員 岩井 俊宗 (特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク 代表理事)
- 選考委員 上田 英司 (特定非営利活動法人NICE(日本国際ワークキャンプセンター) 事務局長)
- 選考委員 黒河 悟 (労働者福祉東部ブロック協議会 会長)
- 選考委員 佐藤 蘭美 (法政大学 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科 教授)
- 選考委員 岩村 真奈美 (中央労働金庫 総合企画部CSR企画 チーフマネージャー)

## ●予備審査・広報協力

予備審査は、各地域のNPO支援組織と中央労働金庫都県本部が実施いたしました。

- 認定特定非営利活動法人 茨城NPOセンター・ commons  
http://www.npocommons.org/  
茨城県水戸市梅香2-1-39 茨城県労働福祉会館2階  
TEL: 029-300-4321 / E-mail: info@npocommons.org
- 認定特定非営利活動法人 宇都宮まちづくり市民工房  
http://blog.canpan.info/shiminkoubou/  
栃木県宇都宮市平松町561  
TEL: 028-634-9901 / E-mail: utshiminkoubou@yahoo.co.jp
- 群馬NPO協議会  
http://gunma-npo-kyougikai.way-nifty.com/  
群馬県前橋市大手町1-1-1 県庁昭和庁舎1階 NPOボランティアサロンぐんま 内  
TEL: 027-243-5118 / E-mail: gunma-nposalon1@kl.wind.ne.jp
- 認定特定非営利活動法人 さいたまNPOセンター  
http://www.sa-npo.org/  
埼玉県さいたま市浦和区東仲町12-12 ツインハイツ102 /  
TEL: 048-811-1666 / E-mail: office@sa-npo.org
- 認定特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ  
http://npoclub.com/  
千葉県千葉市美浜区真砂5丁目21-12  
TEL: 043-303-1688 / E-mail: npo-club@par.odn.ne.jp
- 東京ボランティア・市民活動センター  
http://www.tvac.or.jp/  
東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ10階  
TEL: 03-3235-1171 / E-mail: center@tvac.or.jp
- 認定特定非営利活動法人 藤沢市民活動推進機構  
http://f-npon.jp/  
神奈川県藤沢市藤沢577番地 寿ビル301号室  
TEL: 0466-53-7366 / E-mail: f-npoc@shonanfujisawa.com
- 特定非営利活動法人 山梨県ボランティア協会  
http://www.yva.jp/  
山梨県甲府市丸の内2丁目14番13号 ダイタビル5F  
TEL: 055-228-3300 / E-mail: vol01@yva.jp

# 2017年助成の選考について

## 選考委員長による選後評



選考委員長 薬袋 奈美子 (日本女子大学 家政学部 住居学科 准教授)

### 認め合う力

市民活動の担い手には、仕事や子育てが一段落した人が多く、60歳代が若手だと言われることも少なくありません。確かに、本プログラムへの応募団体にも、そのような年齢構成のグループは多いです。しかし、今回、選考をする中では、若い人、それも20歳代30歳代といった人も多いと感じました。本プログラムが、中央労働金庫の社会貢献事業であり、募集要項にも“働く人が、自らの経験を活かして参加する活動”であることを謳っていることが背景にあるのかもしれませんが、これは、他の助成プログラムにはない特長ではないでしょうか。

働く人は忙しいです。それでも、自分達の生活の中にある課題や、身近な社会の課題を解決するために、仲間を見つけ、活動を始めていることは本当に素晴らしいことです。そして、忙しくてもこのような活動を続けることができるのは、お互いの活躍を認め合っているからではないかと感じました。

特にスタート助成3年目、ステップアップ助成については、書類選考を通過した団体に対して、選考委員との対面での審査が行われます。やはり対話をすると、その団体の活動の様子や、仲間の関係が書類で見ていた以上に伝わります。市民活動は、一人だけでは継続的な地域に根付いた活動には発展しません。団体内でお互いの力を認め合える関係を築けている団体は、活動が着実に広がっているのではないのでしょうか。忙しい中でも働く世代が応募し、助成を受けられるようになるためには、そのようにお互いに認め合い、信頼しあって役割分担を行い、そして必要に応じて取り組み方を改善する柔軟性が必要なのです。

さて、今年の選考の場で議論になったことを2つ紹介したいと思います。一つ目は、継続応募についてです。本助成の特長は最大4年間かけて、団体を育てていくことにあります。募集要項にイメージ図がありますが、最初の3年間は少し

ずつ団体が成長することを期待し、ステップアップ助成では、持続的な展開に向けてしっかりと活動を根付かせるために助成をするという意図があります。

選考の際には、その点を改めて意識して評価させていただきました。継続助成においては、試行錯誤をしながらの応募内容で構いませんが、前年と同じことを淡々と継続するのではなく、その取り組みが次に発展していくためのものであるのかどうか問われます。更に、ステップアップ助成では、助成期間終了後の見直しについて、プレゼンテーション時に質問をさせていただき、審議においてもその点が議論されました。

もう一点議論されたことは、助成することの意味についてです。一般的に助成プログラムは、活動に必要な資金を提供します。しかし、今年のスタート助成2年目以降の応募団体の中には、自立的な運営ができ、本助成がなくても継続的な活動が実現するであろうと思われる団体が散見されました。これは、素晴らしいことですが、限られた助成財源を考えた場合に、選考においては、どうしても、より助成を必要とする成長過程のプロジェクトを優先せざるを得ません。自立的な運営が見込まれる団体に対しては、助成ではなく、その成長努力を称えるような賞を授与する形が相応しいのかもしれませんが。

これまでのスタート助成1年目の応募データを比較すると、次第にNPOの法人格を持つ団体の応募が減少し、任意団体からの応募割合が増えています。これは言い方を換えれば、本プログラムを受けることが、社会的な信用を得る看板として利用していただけることを意味します。これはまさに冒頭でお伝えした“認め合い”を組織間で行っているとも言えます。

お互いを認め合い、活動を地域に根付かせ、高めあう仲間をどれだけつくることのできるのか。それが日本で市民活動が根付き、生活が豊かになる鍵です。

# 2017年助成対象団体一覧

今年は、応募件数215件の中から53件、助成総額1,861万円（内訳：スタート助成 49件 助成総額 1,461万円、ステップアップ助成 4件 助成総額 400万円）が、予備審査と選考委員会を経て、助成対象として選ばれました。

※2017年4月末現在。



<スタート助成・1年目：24件> 活動開始資金 / 1団体上限30万円

都県名	活動名	団体名	代表者名	活動対象地域	助成額
茨城	笠間ふれあい教育旅行推進事業	笠間の魅力発信隊	大坪 桂	笠間市	30万円
茨城	親水水路造成と子供広場造成及び遊具類の設置	息栖の森 自然共生を図る会	後藤 和夫	那珂市中台	30万円
茨城	キッズ救命隊養成プログラムバージョンアップ事業	特定非営利活動法人 子どものための救命教室	正根寺 雅子	つくば市	30万円
茨城	茨城/鹿行地域における産後ケアプログラムの普及～産後ママ応援プロジェクト!すべての母が産後ケアを受けられる地域を目指して～	特定非営利活動法人ファーストペンギンネットワーク	宇野 則子	鹿嶋市	30万円
茨城	ひたちなか子育て支援ネットワーク～孤立育児を支える訪問型子育て支援活動～	特定非営利活動法人 たまり場ぼぼ	早川 愛	ひたちなか市	30万円
群馬	障がい児の車いすテニス及び車いすスポーツによる余暇活動支援	群馬車いすジュニアテニスチーム 上洲W-inds	福田 芳和	高崎市、前橋市、伊勢崎市	30万円
群馬	高齢化日本一の村で学ぶ本当の生きる力!なんもく大学	なんもく大学	古川 拓	甘楽郡南牧村	30万円
埼玉	重度知的障害児・者が過ごす環境作り	特定非営利活動法人 ともす	中島 敏史	東松山市	30万円
埼玉	無料塾の周知を図り、子どもの居場所・学びの場づくりの輪を広げる活動	特定非営利活動法人 無料塾ひこざ	角田 眞喜子	さいたま市桜区を中心 to 県内全域	30万円
千葉	市民連携で進めるコミュニティ・ガーデン事業	うらやす第二湾岸道路用地の活用を進める会	高柳 繁雄	浦安市明海 東京第二湾岸道路用地	28万円
千葉	ちゃり de おさんぽ ワークショップ・キャラバン	自転車で楽しむライフスタイルラボ	志村 秀樹	千葉市花見川区、稲毛区	29万円
千葉	コミュニティカフェ「Cocokara-Cafe」の運営	コミュニティワークス 結びの輪	久保山 一美	山武市	30万円
千葉	子育てしながら活動イベント交流にぎやか地域	にこりこワークーズ	陶守 奈津子	千葉市美浜区海浜ニュータウン内外	30万円
千葉	ちば里山保全・事業化支援活動のリーダー養成	ちば里山・バイオマス協議会	高澤 真	市原市、大多喜町、長南町、いすみ市ほか	30万円
東京	認知症高齢者の居場所づくり、介護者支援、地域への啓発を目指すカフェの開設・運営	松が丘見守り隊	坂本 恵司	東久留米市 浅間町	30万円
東京	経済的困難を抱える高校生および高校中退者への学習支援事業	特定非営利活動法人 ユースコミュニティ	濱住 邦彦	大田区および隣接区	30万円
東京	ブラインドスポーツ普及活動(サッカー、ゴールボール、サーフィン等)、視覚障害者の移動支援活動	ブラインドスポーツクラブ 乃木坂ナイツ	葭原 滋男	港区、松戸市、柏市、我孫子市、湘南地域	29万円
東京	腎臓病・透析患者のピアサポーター養成プログラムの開催	チーム☆スカイ	宿野部 武志	23区内全域	30万円
東京	LGBT当事者の子どもや若者、家族のための「本当の色」発見プロジェクト	TRUE COLORS	金子 恵理	都内全域	30万円

都県名	活動名	団体名	代表者名	活動対象地域	助成額
20 東京	児童養護施設のごどもを対象とした職業体験プログラム	夢★らくざプロジェクト	高田 亮	都内全域	30万円
21 神奈川	ハンドメイド(もの創り)を通して、サバイバーが安心して過ごすことが出来る居場所づくり	ハナリマバイレーツ	赤松 未来	横浜市	30万円
22 神奈川	認知症とともに歩むあなたへ～物語を創作する楽しさを味わう～プロジェクト	あみけるひろば横浜	杉本 智穂	神奈川県 東京都	30万円
23 神奈川	居場所居酒屋「汽水」	特定非営利活動法人 パノラマ	石井 正宏	青葉区あざみ野	30万円
24 神奈川	動物園におけるESDプログラム開発とその普及を支えるネットワークづくり	ShoeZ (シューズ)	並木 美砂子	横浜市中心 とした全国	28万円
計					714万円

 <スタート助成・2年目：14件> 活動開始資金／1団体上限30万円

都県名	活動名	団体名	代表者名	活動対象地域	助成額
1 茨城	子供達に伝え引き継いで行く里山再生プロジェクト	結城里山の会	海老澤 功	結城市	30万円
2 栃木	滞日ネパール人のための保健・教育情報提供プロジェクト	滞日ネパール人のための情報提供ネットワーク	アリヤル・サントス	東京都、神奈川県、栃木県、茨城県	30万円
3 群馬	アリスの広場（不登校やひきこもり、ニートの若者の居場所）	特定非営利活動法人 ぐんま若者応援ネット	佐藤 真人	群馬県、埼玉県、栃木県	30万円
4 埼玉	地域活性交流ふれあい事業～人がつながり地域を活性していくサロン～	特定非営利活動法人 ジョイライフさやま	久保田 慎三郎	狭山市	30万円
5 埼玉	定時制生徒一人ひとりに大学生チューターを！～早めの目標設定と進捗サポートで退学防止と卒業後の進路の選択肢を広げる～	monkey_spitz	三田寺 安子	さいたま市を中心とした県内全域	28万円
6 千葉	こみかる一むを拠点とした地域交流と子供・高齢者の協同支援	子どもの未来を考える会	佐藤 良治	松戸市西馬橋	30万円
7 千葉	地球仲間たちの学び合い＆‘次世代国際人’英語育てプログラム	特定非営利活動法人幕張イクス パット&ジャパニーズコネクション	荻野 星珠	千葉市と近隣市	30万円
8 東京	実家集って、みんな一緒にワイワイ！育ちあう。	地域福祉スペース⇒ CASA：ワイワイ！	小沼 好宏	練馬区 西東京市	30万円
9 東京	フードバンク事業の拡充	特定非営利活動法人 フードバンク狛江	田中 妙子	狛江市、調布市、世田谷区	30万円
10 東京	なにしょっかクラブ	さきちゃんち運営委員会	八木 晶子	文京区	30万円
11 東京	芝園団地における地域活性化活動	芝園かけはしプロジェクト	圓山 王国	川口市川口芝園団地	29万円
12 神奈川	「もったいない！」をみんなの笑顔に～小さな村のジャムづくり～	特定非営利活動法人 結の樹よってけし	岩澤 克美	愛甲郡清川村	30万円
13 神奈川	高齢者の見守りの仕組みを構築（縦割りの自治会間を横断的につなぎ超高齢化に対応する）	地域情報コミュニティ	中屋 誠	横浜市旭区左近山・市沢団地等 地域	30万円
14 山梨	Mamma Mercato ママたちの市	特定非営利活動法人 マンマメルカート	早川 亜希子	県内全域	30万円
計					417万円



<スタート助成・3年目：11件> 活動開始資金／1団体上限30万円

都県名	活動名	団体名	代表者名	活動対象地域	助成額
1 茨城	3世代を繋ぐ地域みんなの子育てネットワークの構築(コミュニティ場づくり)	一般社団法人もりや子育てネットワークまもり	宮下 嘉代子	守谷市、つくばみらい市、取手市	30万円
2 茨城	人とのコミュニケーションがうまくとれなくて困っている子どもとその保護者のための「みんな いい♡2017」	特定非営利活動法人こどもの育ちサポートステーション	大山 吐志	大洗町、水戸市、ひたちなか市他	30万円
3 栃木	自転車ハブダイナモ小水力発電機の製作・活用を通じた自然エネルギーの普及啓発	鹿沼自然エネルギー推進会	鈴木 貢	鹿沼市及びその周辺市町	30万円
4 群馬	日本語を母語としない人のための受診・健診・防災 安心サポート	特定非営利活動法人群馬の医療と言語・文化を考える会	山口 和美	県内全域	30万円
5 埼玉	更年期を迎える女性の健康をサポート～ウェブサイト情報で全国へ発信～	特定非営利活動法人 ちえぶら	永田 京子	所沢市、全国	30万円
6 千葉	市民が市民の為に活動する市民後見人として、行政からの支援が届きにくい市民層にも光を！	特定非営利活動法人 市民後見太陽	神 時夫	富里市を中心にその近隣市町村	30万円
7 東京	地域で役割を担う高齢者をめざそう！	お互いさまネット・Olive (オリーブ)	紀平 容子	立川市、国分寺市、小平市	30万円
8 東京	育児中のママの社会参加を促す有償ボランティア登録の仕組みづくりと保育スタッフの育成支援	ワッカチッタ	石橋 由美子	立川市周辺	30万円
9 東京	地域で多世代交流「これたま」プロジェクト	コレクティブハウス聖蹟 地域交流プロジェクトチーム	大橋 徹平	多摩市	30万円
10 山梨	ひきこもり当事者の社会復帰への支援	ひきこもり支援 すみれ会	清水 美千子	県内全域	30万円
11 山梨	地域資源の有効活用、人々の支え合いで住み良い街づくり	特定非営利活動法人 みんなの街	室田 泰文	主に北杜市	30万円
計					330万円



<ステップアップ助成：4件> 活動展開資金／1団体上限100万円

都県名	活動名	団体名	代表者名	活動対象地域	助成額
1 埼玉	生活困難家庭の青少年への支援活動～「ひだまり塾」と「ひだまり食堂」	チームひだまり	上巻 礼子	川越市	100万円
2 千葉	介護を理由に離職をせず、安心して介護と仕事を両立できるよう働く介護者を支援する	特定非営利活動法人 ケアラーネットみちくさ	布川 佐登美	柏市、松戸市、鎌ヶ谷市、我孫子市	100万円
3 東京	LGBT就活ウェブサイトでの企業向けコンテンツ作成	特定非営利活動法人 ReBit	薬師 実芳	全国	100万円
4 神奈川	英語版「子育てガイドブック」作成プロジェクト	Sharing Caring CULTURE	三坂 慶子	横浜市青葉区	100万円
計					400万円



# スタート助成・3年目／ステップアップ助成 対象団体の概要



## 3世代を繋ぐ地域みんなの子育てネットワークの構築 (コミュニティ場づくり) 茨城県

### 一般社団法人もりや子育てネットワークままもり

つくばエクスプレスの開通に伴い急激に人が流入し、子育て世帯が増加している守谷市において、安心して楽しく子育てできる環境とネットワークづくりに取り組む団体(2011年設立)。

2ヵ年のスタート助成を受け、地縁のないママたちが子育てに関する不安を解消する一つのツールとして情報冊子を発行し、その過程において商工会やシニアアドバイザーなど様々な立場の人たちとの連携が生まれた。また市の交付金事業で、期間限定の拠点を設け、子育てに関する情報発信やママが主体的に参加できるようなマルシェなどを実施した。拠点を獲得することにより活動が開かれたものとなり多世代の参加が促されるようになった。

3年目は、これまでの活動を定常的なものとするために、活動拠点の常設化を目指す。同時に運営スタッフの育成やシニア世代の参加を促しながら、さらなる地域の連携強化に取り組む。



## 人とのコミュニケーションがうまくとれなくて困っている子どもとその保護者のための「みんな いい♡2017」 茨城県

### 特定非営利活動法人こどもの育ちサポートステーション

全ての子どもが健やかに社会に適応できる大人に育つためのサポートを行うことを目的に、主に普通学級に通学しているけれども発達がゆっくりな子ども達や、その保護者の支援に取り組む団体(2011年設立)

2ヵ年のスタート助成を受け、子どもたちが、社会を生き抜く力を育てる「ソーシャルスキルトレーニング」を年齢期別に毎月実施。子どもたちの特性に応じて継続的にトレーニングをしたことにより、それぞれが抱えている課題が可視化され、保護者向けの個別カウンセリングでも的確なアドバイスができるようになった。

3年目は、「ソーシャルスキルトレーニング」と合わせて、子どもの認知を育て成功体験を引き出す「フォイヤーシュタイン教育プログラム」を取り入れ、子どもたちが自立した人間として地域を巣立てるようサポートを強化していく。



## 自転車ハブダイナモ小水力発電機の製作・活用を通じた自然エネルギーの普及啓発 栃木県

### 鹿沼自然エネルギー推進会

鹿沼の自然環境や生活を守りながら自然エネルギーの普及・推進と地域の活性化を目的に、小水力発電機の製作と実証実験、市民向けセミナーに取り組む団体。(2012年設立)

2ヵ年のスタート助成を受け、自転車ハブダイナモ小水力発電機(ハブダイナモ=自転車の車軸の回転により発電する装置)を3台設置。農業水路などでの実証実験により改良を重ね、発電量の向上や様々な用途を検討するとともに、定期的に普及セミナーを開催した。発電機の改良と照明の省電力化に取り組み、街路灯への実用化の途が開かれ、また普及活動を通じて地元の中学校や環境団体との連携が強化された。

3年目は、発電機をさらに改良し、市内5か所程度で街路灯としての実用化を強化するとともに、誰でも発電機を組み立てられるようにマニュアルを作成する。また市民向けのセミナーも引き続き開催し、自然エネルギーの普及啓発を図っていく。



## 日本語を母語としない人のための受診・健診・防災 安心サポート 群馬県

### 特定非営利活動法人群馬の医療と言語・文化を考える会

言語や文化の壁なく、皆が手をつなぎ、大切な命や健康を守ることができる社会の実現を目指し、日本語を母語としない人が、適切な医療サービスを受けられるよう、医療通訳の養成・派遣、普及活動に取り組む団体(2013年設立)。

2ヵ年のスタート助成を受け、地域の在日外国人の現状と課題を共有する講座やシンポジウムを実施し、関係機関との連携を強化した。また群馬県内の医療機関を対象に外国人の受け入れ体制についてアンケート調査を実施し、具体的な方策を備えていない現状を確認した。そこで試験的に通訳者派遣を開始し、通訳に対する需要と課題の把握に努めた。

3年目は、病院の希望に応じて院内資料や案内板の多言語翻訳を実施するとともに、ソーシャルワーカー等の専門家と協力して医療通訳・相談の電話サービスの企画・運営を行う。それにより県内の病院における外国人の受け入れ体制の強化を図る。



## 更年期を迎える女性の健康をサポート～ウェブサイトで情報を全国へ発信～ 埼玉県

### 特定非営利活動法人ちえぶら

現代社会ではサポートが薄い更年期を迎える女性自らが、健康を選択できる社会づくりを目指し、これから更年期を迎える世代への知識の普及と意識の改革を目的とする団体(2014年設立)。

2ヵ年のスタート助成を受け、インストラクターによる定期的な運動教室と地域の人たちと出会い、互いに悩みを共有できるイベント「ちえぶらCafé」を実施。計9千人以上の参加者に活動を周知することができた。また、更年期の女性をサポートする人材を養成するため、eラーニングとスクーリングによる講座を実施し17名の伝え手が誕生した。

3年目は、これまでの活動を継続するとともに、更年期の体験談や乗り越え方、自宅でできるセルフメンテナンスの動画を盛り込んだウェブサイトの整備を進め、地域に関わらず正しい情報にアクセスできるようコンテンツの充実を図る。



市民が市民の為に活動する市民後見人として、行政からの支援が届きにくい市民層にも光を！ 千葉県

特定非営利活動法人市民後見太陽

高齢化が進む富里市において、増加する独居者や障がいを抱えながら障害年金の受給ができない等の行政サービスの谷間にいる人たちに対して成年後見人等の利用促進と人材育成に取り組む団体(2013年設立)。

2ヵ年のスタート助成を受け、成年後見制度に関する毎月の勉強会と相談会を実施し、活動が広く周知されるようチラシの作成と配布を行った。地道な活動の結果、取り組み内容に対する理解と信頼度が高まり、市の成年後見制度に関する事業策定に繋がった。また、地域包括支援センターとの協働により月に1回程度、相談案件を受けるようになった。

3年目は、これまでの活動を定着させ、継続的なものとするために相談室の常設化を図るとともに「市民後見人養成講座」を実施し、担い手の育成に取り組む。



地域で多世代交流「これたま」プロジェクト 東京都

コレクティブハウス聖蹟 地域交流プロジェクトチーム

コレクティブハウス聖蹟を拠点に、コレクティブハウスで行われてきた、多世代で日常的につながり合う暮らし方を周辺地域へ普及することを目的とする団体(2013年設立)。

2ヵ年のスタート助成を受け、多世代の地域住民との関わりが持てるよう、親子サロン、地域交流カフェ、コモンミール(共食)、高齢者サロンを実施。活動を重ねることで、コレクティブハウス聖蹟が、気軽に立ち寄れる場として少しずつ地域に根付くとともに地域住民の主体的な参加が促進されてきた。

3年目は、さらに参加者が“お客”ではなく、ともに場を作る担い手となるよう、互いにちょっとした得意なことを教え合うといったワークショップや講座を開催する。また地域の大型分譲マンションやシェアハウス等にコモンミールのお試し体験会や導入支援に取り組み、地域交流の場を拡大していく。



地域で役割を担う高齢者をめざそう！ 東京都

お互いさまネット・Olive (オリーブ)

「住み慣れた地域で最期まで」を目指して、超高齢化を迎える地域社会の中で高齢者同士が「お互いさま」の精神で助け合う仕組みづくりに取り組む団体(2014年設立)。

2ヵ年のスタート助成を受け、倉庫だった商店街の空き店舗を活動拠点として改装し、「男の井戸端会議」や「手仕事ひろば」などのカフェ活動を行った。また、高齢者の入院時のサポートや生活支援を実施するなど助け合いの仕組みづくりに取り組んだ。人が関わる“場”を作ったことで、主体的に関わる参加者が生まれ、さらに介護に関わる他の地元団体との連携が進んだ。

3年目は、これまでの活動を充実させるとともに、多世代交流の場である食事会「オリーブ食堂」の定期開催に取り組む。またスタッフや利用者に対してインタビューまたは座談会を実施し、さらに参加者が主体的に関われる仕組みの構築を目指す。



ひきこもり当事者の社会復帰への支援 山梨県

ひきこもり支援 すみれ会

ひきこもり当事者の社会復帰を支援する事を目的に、当事者や家族の居場所作り、交流会の運営などに取り組む団体(2014年設立)

2ヵ年のスタート助成を受け、共通の悩みを持つ当事者同士が顔を合わせ、集まる場となる当事者会を定期的に開催した。当事者の中には短期アルバイトを行ったり、進んで地域活動に参加する者も現れ、社会復帰の一手手前となる支援につなげることができた。また親の会では、親同士が悩みを共有できる場と、料理や編み物、スポーツなどを通じて交流する場を提供し、親のストレス解消に向けた支援にも取り組んだ。

3年目は、当事者会と親の会を引き続き開催し、個別相談にも応じる場を提供する。また長期の引きこもり当事者(40歳以上で10年以上の引きこもり)に対して、他団体と連携しながらの訪問支援にも取り組み、当事者支援の団体として更なる発展を目指す。



育児中のママの社会参加を促す有償ボランティア登録の仕組みづくりと保育スタッフの育成支援 東京都

ワッカチッタ

立川市周辺で、0～6歳児の親子を対象に育児中の孤立や不安を防ぎ、育児を楽しむようサポートすることを目的に、地域密着の子育て情報サイト「ワッカチッタ」の運営や親子向けのイベントを実施する団体(2014年設立)。

2ヵ年のスタート助成を受け、現役で育児中のパパ・ママに呼びかけ「ワッカチッタ」の記者を募集し、育児のリアルな声をサイトに反映させてコンテンツの充実を図った。それによりホームページは3万プレビュー/月を超え、企業や行政からも注目されるようになった。

3年目は、育児中の親がさらに気軽に社会参加が出来る仕組みを構築するため、地域にできた保育園併設の女性専用ワーキングスペースと協働し、ボランティアスタッフの登録システムづくりを行う。また、各種イベント実施時に必要になる保育ボランティアスタッフの育成にも取り組んでいく。



地域資源の有効活用、人々の支え合いで住み良い街づくり 山梨県

特定非営利活動法人みんなの街

少子高齢化に悩む田舎と、田舎暮らしを希望する都市生活者双方が幸せに暮らせる環境を創り出すことを目的に、空き家や耕作放棄地などの有効活用、空き家データベースの作成、地域交流などに取り組む団体(2014年設立)

2ヵ年のスタート助成を受け、利用されていない空き家を改修し、気軽に移住体験ができる「お試し滞在施設」を開設。地域住民と移住希望者の交流会や移住支援等に取り組み、実際に5名の県外からの移住につなげた。また耕作放棄地を開拓しながら、農業体験や自然体験等を実施し、これまでに約500人の参加を集めるなど、団体の知名度も高まっている。

3年目は、引き続き活動の周知に努めながら、滞在施設の運営・改修や移住支援等に取り組む。また3軒目の滞在施設は自然体験と田舎暮らしの双方の魅力を発信できる立地にあることから、参加者層の裾野を拡げ、活動の更なる展開を目指す。



生活困難家庭の青少年への支援活動―「ひだまり塾」と「ひだまり食堂」 埼玉県

チームひだまり

地域住民のきずなを強め、自らの手で住みよい地域を作ることを目的に、「コミュニティカフェひだまり」を拠点として、シニア世代や子育て世代、生活困難家庭の子どもに対する支援事業や市民向けの講座を実施し、地域の人々が集う場づくりに取り組んでいる団体(2011年設立)。

3カ年の助成を受け、生活困難家庭の小中学生を主な対象に、学習支援や居場所作りを目的とした「ひだまり塾」を毎週土曜日に開講し、延べ1,000人以上の子どもたちの支援に取り組んできた。地道に活動してきたことで、地域での認知度も年々高まり、川越市との協働事業や多くの講演依頼を受けるに至っている。また昨年には、市内初の定期開催となる子ども食堂「ひだまり食堂」を開始し、食の専門家やフードバンク埼玉の協力を得ながら、「ひだまり塾」に通う子どもだけではなく、一人暮らしのシニア層も対象に低料金で食事を提供している。

ステップアップ助成では、「ひだまり塾」と「ひだまり食堂」の更なる拡充を目指す。「ひだまり塾」では、小学生の受講希望者が増えていることから、小学生対応の講師を地域の教員OBの中から募集し、支援体制の強化を図る。「ひだまり食堂」では、これまで食事作りには持ち寄り機材で対応していたが、より多くの食事を低コストで提供できるよう厨房設備を充実させ、持続的な運営を目指す。

選考委員会では、地域の居場所として、学習支援と子ども食堂が連動して運営されていること、さらに組織基盤の強化を目指す意気込みが評価された。今後も安定的に活動が継続できるよう団体運営の担い手も増やしなが、大きく飛躍されることを期待し、応援したい。



LGBT就活ウェブサイトでの企業向けコンテンツ作成 東京都

特定非営利活動法人 ReBit

見た目だけでは分かりにくいLGBT(同性愛者や性同一障がい者など)も含め、すべての子どもが、ありのままの自分で大人になれる社会を目指し、小中高大学や教育関係者向けの「LGBT出張授業」やLGBTの若者に対する成人式や就労支援、啓発活動等に取り組んでいる団体(2009年設立)。

3カ年の助成を受け、LGBT就活生に向けたカフェ形式の情報交換会やセミナーの実施、日本初となる情報サイト「LGBT就活サイト」の開設・運営に取り組んだ。情報サイトは延べ18万ビュー以上の拡がりを見せ、さらに新聞やテレビなどのメディア、企業からの問い合わせも増えたことから団体の認知度が年々高まりつつある。また昨年度は約100社の企業担当者に研修を実施するなど、着実に成果を出している。

ステップアップ助成では、LGBTの学生が自分らしく社会で働くためには、より一層の企業側の理解が必要と考え、LGBT研修入門編となる映像を10分程度で作成し、公開する。映像化することにより、時間や地域的な制約があり、直接に研修を受けることの出来ない企業採用担当者の理解の向上につなげていく。また団体HP内のLGBT就活サイトでは、企業向けの情報コンテンツを更に充実させ、学生の受入れにつなげていく。

選考委員会では、LGBT就活生に対する理解向上のために、学生と企業の両方にアプローチしながら着実に活動を展開し、成果を重ねていることが評価された。今後は、何が差別につながるのか明確に発信し、また企業だけではなく自治体や地域社会に対しても啓発に努めることを期待し、応援したい。



介護を理由に離職をせず、安心して介護と仕事を両立できるよう働く介護者を支援する 千葉県

特定非営利活動法人ケアラーネットみちくさ

家族だけでは解決できない介護問題を、地域住民と共に支え合う関係作りを目指し、介護者と地域住民が集う「ケアラズカフェ」を拠点に“介護を一人で抱え込まない・させない”よう支援に取り組んでいる団体(2013年設立)。

3カ年の助成を受け、介護者の拠り所となるカフェの運営や、介護予防の講座を介護者も含めた地域住民向けに開催した。地域に対して地道に広報に取り組んだこともあり、カフェ利用は3年間で平均1日12人から18人へ、講座参加者は年間約300人から約700人へと、大幅に人数が増える成果へとつなげた。また介護者に寄り添う人材の育成を目指した「ケアラーサポーター養成講座」と介護者の交流の場となるカフェの「立ち上げ講座」も地域で開催した。その結果、交流カフェも柏市内で5か所となり、さらにカフェ運営団体と「ケアラーサポーターネットワーク協議会」を結成するなど、支援者間ネットワークの礎を築いた。

ステップアップ助成では、働き盛りの40歳～50歳代からの介護相談の増加から、就労介護者の抱える問題に目を向け、企業向けに「介護離職防止セミナー」を開催する。また介護の実情や情報提供、仕事との両立のノウハウ等を盛り込んだ漫画を作成し、介護を理由とする離職の防止に向けた啓発事業に取り組む。

選考委員会では、スタート助成の3年間で着実に支援者を増やし、また働く人が抱える課題に目を向け、解決に向けた支援をわかりやすい方法で取り組んだことが評価された。就労介護者が悩みを抱え込まず、企業も含めて地域全体で支える仕組みを構築されることを期待し、応援したい。



英語版「子育てガイドブック」作成プロジェクト 神奈川県

Sharing Caring CULTURE

地域で生活する外国人と日本人が文化的な活動を通じて交流と理解を深め、相互に学びを発信する場を共に作ることを目指して、活動に取り組んでいる団体(2014年設立)。

3カ年の助成を受け、「多文化カルチャー講座」や「多文化親子交流会」等を主に横浜市青葉区で開催し、外国人と日本人がつながる機会の創出に取り組んだ。特に親子交流会の気持ちは高く、地域団体と共催によるイベントでは多くの参加者を集め、またメディアの取材も入るなど地域での認知度が高まるきっかけとなった。さらにスタート助成3年目では地域の様々な関係機関との連携が生まれ、活動の定着と展開が更に促進された。

ステップアップ助成では、親子交流会等の活動を通して、子育て情報の収集に苦労している外国人の声をキャッチし、そのニーズに応えるために、英語版の子育て支援ガイドブックを作成する。青葉区では初となる、生まれてから小学校入学までに必要な子育てに関する地域情報を掲載したガイドブックを作成することで、団体の発信力を強化していく。さらに情報冊子を通じて、子育て中の外国人親子と日本人親子の交流機会につなげていく。

選考委員会では、これまで取り組んできた活動が実を結び、また団体の運営体制強化も意識して取り組んだことが評価された。今後も市民団体としての軸足をしっかりと固めながら、外国人も含めた“多文化交流コミュニティ”を成長させる要として大きく飛躍されることを期待し、応援したい。



# 予備審査 担当者所感

応募を受け付けたスタート助成202件全てに対し、都県ごとに予備審査を実施いたしました。予備審査に参加した各地域のNPO支援組織と中央労働金庫都県本部の、それぞれの担当者所感を掲載いたします。



## 茨城県

### 認定特定非営利活動法人 茨城NPOセンター・コモンズ

応募内容がとても多様であり、本プログラムらしさが見られました。特に感心したのは、活動を振り返る機会を計画に盛り込んでいた団体です。やりっぱなしにせず、PDCAを意識することは非常に大事なので、ぜひ意識していただきたいと思います。一方、残念な点もいくつかありました。継続助成に応募できることが本プログラムの特色ですが、スタート助成2年目、3年目の応募件数が伸び悩んでいます。

また、助成期間終了後の活動の持続可能性を、財源面から担保する応募内容が少ないように思いました。積極的に寄付や会費を募って、自主財源を拡大させ、素晴らしい活動を継続していただきたいです。

### 中央ろうきん 茨城県本部

予備審査を実施するにあたり、応募書類をじっくりと拝見させていただきました。応募された全ての団体に共通して言えることは、各団体が「ひとづくり」「まちづくり」「くらしづくり」に対して熱い情熱をもって活動されているということです。働く人が抱える地域社会の課題解決に向け、多種多様な活動をされている各団体の皆様に敬意を表します。

今回、助成対象となった団体の皆様には、助成を有効に活用いただき、活動をさらに発展されることを期待いたします。



## 栃木県

### 認定特定非営利活動法人 宇都宮まちづくり市民工房

予備審査を通して、社会課題の根深さを再確認した一方、解決方法の多彩さに驚かされ、特に地域資源に着目した活動には感銘を受けました。この助成プログラムを活用するには、地域における課題解決のプレーヤーやサポーターを増やしていくという視点、「無いものはつくる」という資源開発の視点が重要になると思います。

また、応募に際しては複数人で募集要項をよく確認し、応募用紙を作成することが望まれます。こうした応募手続も含めて、日々の活動の積み重ねが団体や活動、ひいては地域社会の成長につながることを願ってやみません。

### 中央ろうきん 栃木県本部

『個性が輝く「ひと・まち・くらし」づくり』をテーマに、本年もたくさんの応募を頂きました。その応募書類を拝見させて頂くと皆様の熱い思いが感じられるとともに、「1人の力で成功することは絶対にない。1人の力が他人の協力を得たとき、初めて事業は成功する」という先人の言葉を思い浮かべました。言葉にするのは簡単ですが、皆様は大変な思いで活動をされているのではないかと思います。

最後に今後も厳しい環境が続きますが、同じ志をもつ多くの仲間と一緒に更なる発展を遂げられることを祈念申し上げます。



## 群馬県

### 群馬NPO協議会

設立から間もなく組織基盤が脆弱な団体が、自分たちで必要な資金を調達し、自立した運営を目指すのは大変なことだと思います。応募内容からは、助成金を活用しながら、地域の人に活動を知ってもらうためのPRや情報発信の基盤整備、協力者を増やしたり、活動人材を育成したりするなど、人に投資することで、その助成金の波及効果が大きくなっていることを実感しました。助成終了後も、社会的課題解決に向けて、活動していける力がついたと思いました。

また、応募にあたっては、助成期間の終了後から逆算して事業を組み立てると、より良い活用につながると思います。

### 中央ろうきん 群馬県本部

ご応募いただいた団体の活動内容を見ると、現代の日本社会が抱える課題に真摯に取り組む思いが感じられました。何とかしたいと思っただけでも、実際に行動に移すことは難しいものです。

決して潤沢な資金があるわけではなく、それでもより良い地域社会を目指して発起し、活動を続けられている姿に感銘を受けました。

予備審査は非常に難しく悩みました。残念ながら今回は対象とならなかった団体も含めて、ご応募いただいた全ての団体の更なるご活躍とご発展を祈念申し上げます。



## 埼玉県

### 認定特定非営利活動法人 さいたまNPOセンター

助成対象となった皆さま、おめでとうございます。また、全応募団体の皆さまも応募書類の作成、お疲れ様でした。今年も、若い子育て世代からアクティブシニアまで、幅広い層からの応募がありました。

これから地域で取り組もうとされていることや、共感を得たい想いを明文化する作業は、時間や労力が掛かります。一方で、これまでの活動の振り返りや今後の計画、メンバー間の情報共有の機会にもなります。計画の見直しや、より伝わりやすい表現への変更が必要な場合もありますが、作成した応募書類は、今後にも活かせる資料としてぜひ、ご活用ください。

### 中央ろうきん 埼玉県本部

応募書類に目を通す中で、社会が急速に変化していることや、大小様々な課題が新たに生まれていることを改めて認識しました。その課題は、行政では対応しきれないものも多く、だからこそ、今回応募いただいた皆様の活動は、大変重要で意義あるものだと感じます。私は、人と人との繋がりが何よりも重要だと考えます。

選考結果にかかわらず、今後、皆様の活動が周りの多くの人を巻き込み、活動がさらに発展していくことを期待しています。

# 予備審査

担当者所感



## 認定特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

今年の応募団体は、取り組みの視点も様々、団体の構成員の年代も30代から70代と幅が広く、「なるほど」とうなずきながらの審査になりました。

町会の活動をベースに新たな団体を立ち上げる、公的な施設を活用して市民目線の活動を行う、地域の居場所を作る等、応募内容はどれも地域の状況や課題に沿っていて、応援したいと思う内容でした。その中でも、課題解決のストーリーが明確で、実現可能性が高いものに共感を覚えました。

助成対象とならなかった団体も含め、活動を継続されることを願います。

## 中央ろうきん 千葉県本部

予備審査という形で助成プログラムに携わらせていただき、各団体の応募内容を拝見しました。助成のテーマである「ひと・まち・くらしづくり」という点で、どの団体の活動も地域・社会の中で必要なのに、なかなか行政等では対応できない問題の解決に取り組まれており、熱いものを感じました。また、読めば読むほど、どの団体の取り組みも甲乙つけ難く、審査というのは難しいものだと感じました。

最後となりますが、今回ご応募いただきました全ての団体の更なる発展、ご活躍を心より祈念申し上げます。



## 認定特定非営利活動法人 藤沢市民活動推進機構

今年の応募には、まちづくりの活動の傾向があったように感じました。主体や受益者も多種多様で、本プログラムのコンセプトである「個性が輝く“ひと・まち・くらし”づくり」を応援することにふさわしいものばかりでした。重視する活動として、「働く人が抱える地域社会の課題を解決する活動」と募集要項に記載がありますので、その部分も意識して予備審査をさせていただきました。

助成期間中だけに留まらない活動の成果や効果を目標に立てるなど、計画性を感じる応募内容も多く、例年通り難しい審査となりました。

## 中央ろうきん 神奈川県本部

今年は、地域活性化・フードバンク・育児支援などに取り組んでいる多くの団体から応募をいただきました。それぞれの団体が地域課題の解決に向けて、主体的に取り組んでいる様子が伺えました。

また、応募内容を拝見すると地域での人と人の繋がりが生まれており、地域コミュニティが希薄になっている現代社会において、このような活動の重要性を改めて感じました。一つひとつの活動が拡がり、地域全体の活性化に繋がっていくことを願っております。

最後となりますが、ご応募いただきました全ての団体の更なるご活躍を心よりお祈り申し上げます。



## 東京ボランティア・市民活動センター

「スタート助成」の特徴に沿ったように、設立から間もない・これから設立という団体からの応募が多く見られました。団体としての経験が短くとも、まちの中で、くらしの中で感じている孤立や社会課題について、個人を超えて、ひとつの団体を超えて様々な人や団体と一緒に理解を広げ、取り組んでいこうとされている応募内容に共感し、心強さを感じました。また、孤立や社会課題を感じている方自らがつながっていこうとする活動も増えているように思います。

「スタート」が元気で確かなあゆみとなるために、これからもご一緒していきたいです。

## 中央ろうきん 東京都本部

応募内容を拝見し、「ひとづくり」「まちづくり」「くらしづくり」の各分野において、地域が抱える諸課題を再認識するとともに、これら地域の課題が社会全体の課題にもつながっているのだと感じました。

小さな波が重なり、やがて大きな波に変化するよう、これらの活動が地域ごとに活性化していくことで、活動の輪が地域を超えて広がり、誰もが明るく笑顔でいられる社会となることを期待します。



## 特定非営利活動法人 山梨県ボランティア協会

今年も様々な市民活動団体のアイデア溢れる事業計画を拝見し、私自身も気付かされることも多く、市民活動の可能性を改めて感じています。

ご応募いただいた内容は、各団体が日常的に感じている身近な社会課題を事業という形で解決に向かっている工程が伺え、それぞれの熱い想いが伝わってきました。

しかし、中には想いが先行して、実現までのハードルが幾つもあるものも見受けられました。私たち中間支援組織はもちろん、行政・企業・NPOなどと連携し、多くの方が関わりながら皆さんの想いが実現できることを期待しております。

## 中央ろうきん 山梨県本部

助成プログラム予備審査にあたり、多くの団体の皆様から寄せられた応募書類を拝見しました。

地域の活性化、子育て支援、環境保護など、地域の抱える多くの課題や諸問題に対して、県内のNPOやボランティア団体が、住みよい地域作りを目指して活動を行なっていることに、改めて敬意を表する次第です。

今回、予備審査を担当させていただき、どの団体の活動も甲乙つけがたい内容のあるもので、頭を悩ませましたが、民間ならではの発想を期待する活動や、助成終了後の発展性などを重視して審査いたしました。

最後に、ご応募いただいた全ての団体の更なる発展を祈念いたします。

# 本審査

## 選考委員 所感



各地域の予備審査を経て、選考委員会を開催いたしました。6つの選考基準（地域貢献性、参加性、独創性、実現性、成長性、発展性）に基づき選考にあたった、各選考委員の所感を掲載いたします。

### 特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク 代表理事 岩井 俊宗



各地からの想いの詰まった応募書類をしっかりと読み込み、真剣に審査させて頂きました。選考基準は募集要項にお示ししてある通りですが、採択された団体とそうならなかった団体があります。その境目はとても難しいのですが、一つにはその活動が社会的要請に応えつついていくことのできる活動に育っていくかという点があります。

活動の始まりは、誰かの放っておけない想いや、なんとかしなければならないという使命感であることも、少なくないと思います。ただし想いや使命感を活動にしていくためには、ただ“やらなきゃ”ではなく、限られた資源（仲間や時間、お金やノウハウ）をいかに効果的に活用し、目的の実現に近づけていくかという計画が必要になります。その計画によって、より共感性の高い訴求が可能になります。

助成金に応募することは、活動資金の獲得手段以外にも、応募するプロセスに、団体の活動の価値を他者に伝え、整理をするという側面があります。今回、応募用紙と向き合い、活動を言語化したプロセスは、日常の活動において仲間を募っていく際の大きな力となります。その力を成果に変えて、広く地域社会と、そこに暮らし、必要としている人に届けていただくことを心から期待しています。

### 特定非営利活動法人NICE（日本国際ワークキャンプセンター） 事務局長 上田 英司



本プログラムは、関東エリア1都7県の広域を対象としていることや、さらに「ひと・まち・暮らし」という広いテーマであることから、各地域より、まさに最前線の様々な課題や取り組みが選考委員会に届けられます。課題が広く社会に伝わっていくこのプロセス自体にも、とても価値があることだと感じています。

スタート助成については、社会実験の挑戦の場だと思います。上限30万円の助成金を、活動や団体のどこの部分に使いたいかを明らかにし、トライ&エラーを繰り返していただきたいと思っています。1年目だけではなく、2年目、3年目に応募する機会があるということは、中期的な戦略を描くことができるチャンスでもあります。

ステップアップ助成については、活動の維持ではなく、団体の飛躍を期待しています。これまでの実績をもとに、重点テーマを決めて、いかに自立した運営を行うかということを検討しなければなりません。これは、3年目のスタート助成が終わってから考えては、すでに遅いと思います。スタート助成の応募段階から、ステップアップ助成を見越して、活動計画を作っていく必要があります。これは、助成金を得るという短期的な目標ではなく、活動・団体の継続的な発展のためにも非常に大切なプロセスだと思います。

本プログラムから、市民参加の取り組みがより一層広がっていくことを心から期待しています。

### 労働者福祉東部ブロック協議会 会長 黒河 悟



今年、選考委員として2度目の本審査を行いました。改めて多くの地域で様々な地域課題に取り組んでいる市民の皆さんがおられるということに心強く思いました。また、選考を通して、現在、地域で何が求められ、必要とされるのかについて学ばせていただきました。

スタート助成1年目については、設立後間もないため、地域の課題に向き合い、どうしたら上手く活動を進められるのか、それぞれ悩まれた跡が伺えます。しかし、現在は、地域の市民活動やNPO活動は大きく広がっています。そのような先輩団体の経験を是非学んでください。つながってください。活動を豊かなものとするため、地域のNPO支援センターや他の団体と日頃からつながることの大切さについて、選考を通して痛感しました。

継続助成について見ると、活動の経験の積み重ねのみならず本助成プログラムで実施するパートナーミーティング（贈呈式）や、フォローアップミーティング（中間報告会）への参加が、活動の自己検証と相互学習の効果を発揮しています。活動に思い込みは禁物です。一人で抱えてもいけません。いつも「共に」をキーワードに、徐々に参加する人が増え、活動が定着していくためにも、この2回のミーティングの内容を団体内で共有し活動の発展に役立ててください。そしてこの助成金が、活動の一助となり、自立した息の長い取り組みにつながることを心より期待します。

### 法政大学現代福祉学部 福祉コミュニティ学科 教授 佐藤 繭美



今年、社会福祉学の研究者として初めて選考に携わりました。

地域におけるさまざまな課題に対して、真正面から取り組まれている姿に、選考をしながら心が揺さぶられるほど感銘を受けました。始まりは小さな取り組みであっても、継続することにより、社会に認められ、必要とされる活動に大きく成長していることが応募書類やプレゼンテーションから伺えました。

また、本プログラムの「ひと・まち・くらしづくり」というキーワードは社会福祉学と切り離せないものであるということを改めて痛感し、市民と専門職が、より一層の協働関係を築いていくことの必要性を私自身が学ばせていただきました。

選考において、気づいた大事なポイントをいくつか挙げたいと思います。まず、地域を巻き込む力があること、活動が継続して展開していく可能性を明確に持ち得ていること、そしてそれに伴う資金調達の手間です。助成金は限りあるものであり、一定の期間が終了すれば、団体が自力で活動しなければなりません。助成に至らなかった団体の皆様には本当に心苦しい思いでおりますが、この点を今後の課題としていただけたらと思います。今後、皆様による社会的な活動が大きな実を結び、花開くことを心より楽しみにしております。

### 中央労働金庫 総合企画部 CSR企画 チーフマネージャー 岩村 真奈美



今年で15回目の募集となった本プログラム。地域の様々な課題に目を向け、チャレンジをしているたくさんの団体からご応募いただきました。毎回、選考を通して今、地域で何が起きているのかを学ばせていただいています。

選考委員会では、選考基準に照らし合わせるだけでなく、特に助成終了後の波及効果がどのくらい見込めるか、団体の活動を必要としている人がどこにどのくらいいて、この活動によって、どれだけの人が幸せになれるのか、という視点で考えて合意形成をはかっていきました。

特に難しかったのは、ステップアップ助成の選考でした。1団体あたりの助成金額が増える分、助成金ありきの活動になっていないか、これまでの活動を踏まえて、応募内容に今後の展開や、定着が反映されているか等、委員一人ひとりの意見を共有しながら選考しました。これまで応援してきた団体だけに苦しい作業でした。

選考は応募団体と選考委員との対話、応募用紙は団体の想いを伝える大切なツールです。なぜその活動をするのか、なぜそこに助成金を使いたいかを、伝える工夫があるかどうかを採否を分けると感じました。

採択された団体の皆さんと、お金だけではなく、助成金を持つ皆さんの価値をともに感じる1年にしたいと思います。ご応募いただいた全ての団体の皆さまに、心より感謝申し上げます。

**2017  
募集要項**

〈対象地域〉  
関東エリア  
1都7県

# 中央ろうきん助成プログラム

## 応援します！ 個性が輝く“ひと・まち・くらし”づくり

### 市民活動の新しい芽を、最長4年間支えます。

「ひと」が、それぞれの地域で喜びと誇りを持って働き、活動し、共にいきる――。  
 私たちは、そうした人間味ゆたかな社会の実現をめざし、個性が輝く“ひと・まち・くらし”づくりをテーマに助成を行います。  
 このプログラムでは、関東エリア1都7県を対象に、働く人が抱える地域社会の課題解決に向け、未来の財産となる「ひと」を  
 育て、魅力的で住みよい「まち」をつくり、多様な生きかたを認め合う「くらし」を実現する活動を応援します。  
 特に、財政規模の比較的小さい団体を対象とし、これからはじまる活動をじっくり支えるプログラムとなっています。  
 また、このプログラムを通して〈中央ろうきん〉の会員と、助成対象団体との協働が生まれることも期待しています。  
 それぞれの地域で活動しているボランティアグループや市民団体からの応募をお待ちしています。

中央ろうきん社会貢献基金

\*このプログラムは、特定非営利活動法人市民社会創造ファンドの協力のもとに実施しています。  
 ※「中央ろうきん社会貢献基金」は、中央労働金庫が社会貢献活動の推進を目的として、2002年4月に設立した基金の名称です。

## 1 対象分野

下記の3分野を対象とします。  
 (複数の分野にわたって取り組む活動も歓迎します)

- (1) ひとづくり：  
未来をにう子どもや若者たちが、個性豊かに成長し、自立した個人として地域で行う活動 など
- (2) まちづくり：  
生活の場としての居住地や商店街などを魅力的な空間とし、自然や歴史を生かした住みよい地域環境をつくる活動 など
- (3) くらしづくり：  
地域に生きる人が、さまざまな障害や困難を乗り越えて地域社会に積極的に係わり、安心して自立した生活を実現するための活動 など

## 2 重視する活動

働く人が抱える地域社会の課題を解決する活動で、以下のものを重視します。

- (1) 働く人が、自らの経験を活かして参加する活動
- (2) 自らの地域をよりよくするために、さまざまな人が自発的に参加する活動
- (3) 地域のさまざまな団体が連携し、取り組む活動

## 3 募集期間

2017年1月4日(水)～2017年1月13日(金)〈必着〉

## 4 助成対象期間

2017年6月1日～2018年5月31日の期間に行われる活動を助成対象とします。

## 5 助成対象団体

- (1) 1都7県(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨)を主たる活動の場としているボランティアグループや市民団体(NPO法人等)  
※上記エリア内で、広域的に活動を行っている団体も対象とします。
- (2) スタート助成は、2007年1月1日以降に設立した団体(任意団体期間含む)であり、支出規模500万円未満(直近年度実績)の団体を主な対象とします。
- (3) ステップアップ助成は、スタート助成で3年または2年にわたって助成を受けて活動を行った団体を対象とします。

## 6 助成内容

助成総額はおおむね2,000万円です。  
 このプログラムは、地域で新たに開始した活動が定着するまで、最長で4年の助成を受けられる仕組みです。

### (1) スタート助成(活動開始資金)

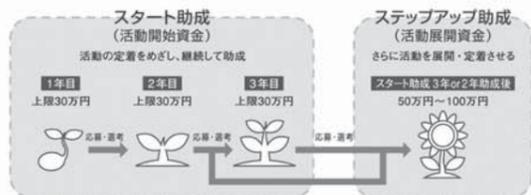
1団体 上限30万円

- ・新たな活動を開始するための助成で、団体の活動実績を問いません。
- ・活動の定着まで最長3年にわたって継続して助成を受けることができます。ただし、年ごとに応募し、選考を受けていただきます。

### (2) ステップアップ助成(活動展開資金)

1団体 50万円～100万円

- ・「スタート助成で3年または2年にわたって助成を受けて活動を行った団体」が、さらにその活動を展開・定着させていくための助成です。



## 7 対象費目

スタート助成では、活動に必要な直接経費の他、助成額の30%まではスタッフ等の人件費も含めることができます。(なお、ステップアップ助成では、人件費や事務局諸経費などについての上限は特に定めません。)

## 8 選考方法

選考は下記の選考基準に基づいて選考委員会にて行います。

- (1) 地域貢献性：住みよい地域を実現するもの
- (2) 参加性：さまざまな人が自発的に参加するもの
- (3) 独創性：新しい試みに挑戦するもの
- (4) 実現性：計画の意図や内容が実現できる可能性の高いもの
- (5) 成長性：活動を通して人も組織も育つもの
- (6) 発展性：助成後も活動の発展があり、波及効果が期待されるもの

本プログラムで取得する個人情報につきましては、選考および助成金セミナー開催の告知に必要な範囲で利用し、当基金が責任をもって厳格に管理を行い、担当事務局(中央ろうきん社会貢献基金、市民社会創造ファンド)、および選考委員・予備審査担当者以外の第三者に提供することはありません。

### 中央労働金庫(中央ろうきん)

労働金庫(ろうきん)は、労働組合や生活協同組合のはたらく仲間が、お互いを助け合うために資金を出し合っつった協同組織の金融機関です。はたらく人たちの暮らしを支え、快適で過ごしやすい社会づくりをめざしています。中央ろうきんは全国に13ある労働金庫のうちの一つで、関東エリア1都7県を対象に事業をしています。

## 9 「募集要項・応募用紙」の入手方法

「募集要項・応募用紙」は以下のいずれかの方法により入手できます。

- ① 中央ろうきんのホームページからダウンロード。
- ② 最寄の中央ろうきん窓口。
- ③ 2016年11月30日(水)に東京にて開催する「助成金セミナー」への参加。(詳細は中央ろうきんのホームページ参照)

## 10 応募方法

応募用紙(所定の書式による)のみ、折りたたまずに、郵便にてお送りください(持ち込み不可)。なお、選考過程で、必要に応じて聞き取り調査の実施や団体の定款・事業報告書などの提出をお願いすることがあります。

※お送りいただいた書類はお返しできませんので、送付前に必ずコピーをとっておいてください。

## 11 選考結果

選考結果は、2017年5月上旬を目途に文書にて連絡いたします。なお、採否に関するお問合せには応じられません。

## 12 助成決定後について

- (1) 団体名、代表者名、所在都県名、活動名、活動概要、活動対象地域、助成金額を公表します。
- (2) 覚書を「中央ろうきん社会貢献基金」と締結し、それに基づいて活動していただけます。
- (3) 贈呈式(2017年5月26日(金)開催予定)にご出席いただきます。
- (4) 中間報告書と完了報告書をご提出いただけます。
- (5) 中間報告会(2017年12月開催予定)にご出席いただきます。
- (6) 中央ろうきんの社会貢献活動に関する広報活動にご協力願います。

### 応募用紙送付先・問い合わせ先

**中央ろうきん社会貢献基金**  
 (中央労働金庫総合企画部内) 担当：小川・高瀬  
 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-5  
 フリーダイヤル：0120-86-6956 (平日9時～18時)  
 URL：<http://chuo.rokin.com>

### 特定非営利活動法人市民社会創造ファンド

新しい市民社会の実現に寄与することを理念とし、NPOの資金源を豊かにし、民間非営利セクターの自立した発展と活発化を図ることを目的に、日本NPOセンターの実績の一部を継承・発展するがたちで設立(2002年4月1日)。個人・企業・団体等からの多様な寄付や助成の受け皿となる専門的なコンサルティング機能を備えた資金仲介組織です。 <http://www.civilfund.org>

